

オスロ市文化局  
ムンク美術館

プレスリリース：2008年5月14日

5月23日よりムンク美術館にて開催の展覧会：  
「《叫び》、《マドンナ》との再会」展  
開幕に先立ちまして5月21日（水）11時より記者会見ならびに内覧会へ  
ご招待申し上げます

2008年夏、ムンク美術館の企画展において最大の見どころとなるのは、修復を終えて再び観客の皆様のもとに登場する2点の絵画、《叫び》と《マドンナ》です。

2004年8月22日、ムンク美術館を襲った武器による《叫び》および《マドンナ》の強奪は、世界中の美術館界を震撼させました。2年にわたる警察の追跡の末、2006年8月31日、ついに絵は取り戻されます。その喜びはひとしおでしたが、作品は乱暴な扱いを受けており、損傷は甚大なものでした。

傷を修復し絵画を保存する作業は、非常に骨の折れる、そして時間を要するプロセスとなりました。二作品の技術的、化学的構造に関する大量の情報が収集され、実際の修復方法は、数々の試験やレポート、また選択肢となった方法に対する大規模な鑑定の結果に基づいて採用されました。

《叫び》は液体による損傷を受けており、これは確実な方法で処置することができないものです。《マドンナ》のほうはほぼ修復を終えましたが、本展覧会の後で行われる<sup>リタッチ</sup>修正などの作業がわずかに残っています。

美術史上の、また保存修復の専門的な観点からみた《叫び》の新たな評価は、本作品の推定制作年を一新させるに至りました。

当館館長インゲビョルグ・イツツティは言います。「2枚の絵は、修復後もなお盗難によって生まれた傷の印象をとどめています。しかしこれらの作品の与える芸術体験は

軽んじられていません」

出光ペトロリアムノルゲより、修復作業および本展覧会へのご後援を賜りました。カタログはノルウェー語、英語、そして日本語で出版されます。

保存修復に関する、より詳しい情報は <http://www.munch.museum.no> をご参照ください。

お問い合わせ先：

文化局長 Gro Balas（グルー・バラス）

電話：23 46 20 11／携帯電話：900 63 560

ムンク美術館館長 Ingebjørg Ydstie（インゲビョルグ・イツツティ）

電話：23 49 35 00／携帯電話：916 97 766

広報部長 Jorun Christoffersen（ユールン・クリストファーシェン）

電話：23 49 35 18／携帯電話：481 57 687

オスロ市文化局

ムンク美術館

Postboks 1453 Vika, 0116 Oslo

Tel: 23 49 35 00

Fax: 23 49 35 01

E-mail: [info.munch@munch.museum.no](mailto:info.munch@munch.museum.no)

ホームページ：<http://www.munch.museum.no>